

学校だより

大津市立葛川小・中学校

平成26年5月号

グランドに鯉、泳ぐ

グランドの南西の角、鉄棒の端のところ、鯉のぼりが元気よく泳いでいます。保育園が園児のために、この度、立派な鯉のぼりを立てられました。葛川の里にすっかりとけこんでいる姿を見ていると、とっても心が和みますがすがしい気持ちになります。鯉のぼりの由来は、「子どもが元気に育つよう、神様にお祈りするため」ですが、医療が今ほど発達していなかった昔は、赤ちゃんが、大きくならないうちに亡くなってしまうことも多くありました。自分の家では、そんなことなく、赤ちゃんが元気に、すくすくと育ってくれますようにと、鯉のぼりをあげて、お祈りをしたんですね。



老朽化した遊具撤去



運動場に設置されていた木製の遊具が、長い年月、風雨等により浸食を受け、子どもたちが使用するには危険な状態になっていましたので、しばらく使用禁止の状態では置かれて

いました。この度、株式会社「昭建」さんのご厚意により、4月19日（土）にすべて撤去していただきました。学校では、定期的に安全点検を実施し、危険箇所や危険物の有無についてチェックを行っていますが、修理の必要なものや今回のような廃棄の必要があるものについては、即時の対応が難しいのが現状です。そんな中、今回のように社会から手を差し伸べていただきましたことに、大変感謝しております。ありがとうございました。

貫井バス停付近に看板設置

葛川小中学校の児童・生徒は全員、スクールバスを利用して登下校していることは、周知のことですが、この4月より貫井バス停で、何人かの児童が乗降するようになりました。横断歩道がなく左右が急カーブで見渡しの悪い所に、貫井バス停はあります。道幅が広く、通勤時間帯と重なるため、通り過ぎる自動車はかなりのスピードを出しています。児童たち

はバス停に

行くために、横断歩道のないこの道を横切らなくてはなりません。大変、危険と言わざるを得ません。そのため、4月初めより家族の方に付き添っていただき、児童たちはこの道を横断しています。学校として、この危険を回避するための方策について、教育委員会はじめ地域の方々にご相談させていただき、危険回避に向けた取り組みを進めていただいているところです。一つ目は、このバス停付近に「注意喚起の看板」を2本立てていただきました。2つ目は、バス停の反対側の待避所で児童が乗降できるように、葛川バスさんをお願いし、連休明けからそのように運行していただく予定です。3つ目は、横断歩道をつけて（書いて）もらうように、地域から要望をあげていただいております。学校は、何よりも子どもたちが安全で安心のできる場でなければなりません。そのために、多くの方々からこのようにご協力いただき、心より感謝しております。



朝読書でこんな本を読みたい

一日の初めは、読書で始まります。小学校では「すくすくタイム」、中学校では「朝読書」と呼んでいますが、15分間の読書を毎朝しています。小1は担任の読み聞かせ、小2からは自分の読みたい本を図書室で借りてきて、読書の時間になると静かに読書の心地よさを体感しています。小学校では、発展的に、朗読・暗唱・表現活動や音楽的活動も取り入れています。一



日わ
ずか
15
分間
です
が、
この
積み
重ね
で
子ども
たちの
言語

の世界は大きく広がり、知的好奇心がどんどん膨らん

でいきます。そして、「物事をしっかり考える力」の育成につながっていくと信じて取り組んでいます。写真は、朝の読書を始めるにあたって、本の紹介や読書の意義について子どもたちに説明しているところです。